

# カビ・ダニがわきにくい。

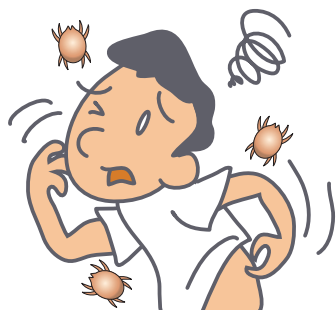
湿度が高く結露してくると、どうしてもカビやダニが発生しがちになってしまいます。それらはアレルギーの原因となると言われています。さて、どうしましょう？

## 湿度が70%を超えると要注意

近年作られてきた住宅は気密の高く換気不良となりがちで、カビやダニの温床となっていました。

換気すればそれらの発生は押さえられますが、その換気システムにすらカビが生えてしまうことがあります。

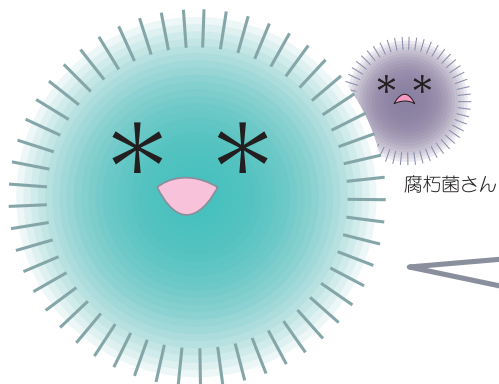
彼らを繁殖させない方法としては「湿度」をコントロールすることにあります。



## 通気断熱WB工法の家なら、

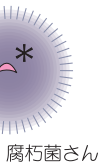
前述の「結露」で説明したように、通気断熱WB工法は湿度を適度にコントロールできるので、カビやダニが繁殖しにくい環境をつくり出すことができます。

もちろんアレルギーの心配もなくなってきますね。

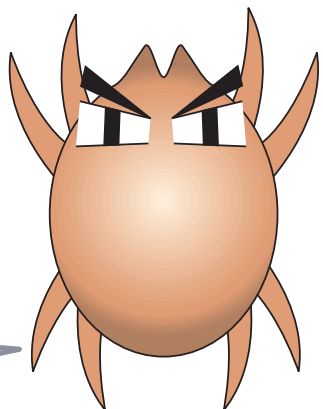


カビさん

名前:カビ。  
住所:食品、木材、畳、布、皮革、ガラス面、タイル面、コンクリート面から、鉄や銅などの金属、岩石、電子部品、接着剤まで様々。  
好きな環境:湿度70%以上。80%を超えると仲間をいっぱい増やす。  
嫌いな環境:湿度50%以下。気温は低くても大丈夫。



腐朽菌さん



ダニやん

名前:ダニ  
住所:カーペット、畳、ふとん、布製ソファ、カーテンやクロス壁、ぬいぐるみ、衣類など  
好きな食べ物:フケ、アカ、カビ  
好きな環境:気温20~30℃で、湿度70%以上。特に75%前後が最適。  
嫌いな環境:温度が50℃以上。湿度が50%以下になると死滅。低温も苦手。

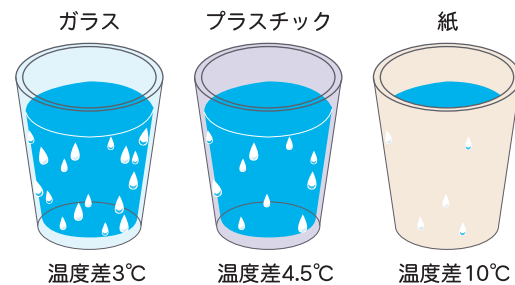
## もう一つの「支える力」

湿度をコントロールするのに通気することも大切ですが、「木で家を建てる」ことも大切なカテゴリーです。

### ●部材別結露発生実験

ガラス、金物は、内外温度差が約3℃から、プラスチックやビニールは約4.5℃から結露が始まります。木材、紙類は10℃くらいまで結露は発生しません。

これにより、木や紙は呼吸する素材であることがわかります。



温度差3℃

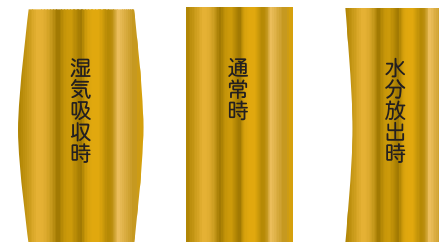
温度差4.5℃

温度差10℃

### ●木の調湿機能

木は自然に呼吸しています。湿度が高くなると湿気を吸収。反対に乾燥してくると水分を放出します。これは、木の持つ自然の機能です。

例えば40坪の家の場合、20tの木材が使用されますが、放出される水分はドラム缶10~15本分。柱一本だけををとってみても、ビール瓶7本分の水分を吸放出しています。



イラストはイメージです。